

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 共通学士力に係る施策を推進する組織を設置する。	→新組織「共通教育センター（仮称）」の設置	A	A			
2. 全学開講科目として提供している各種授業科目群を全学共通プログラムとして再編し、学内外に明示する。	→共通教育科目群の体系の明示	C	C			
3. 全学共通プログラムに初年次教育科目群を新設する。	→初年次教育科目群の体系化	C	B			
4. 共通教育、専門教育についてカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを提示し、学習の道標とする。	→カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成	C	C			
5. MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数及び二学位取得者数を増加させる。	→MDS修了者数を1.5倍、及び二学位取得者数を2倍にする。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針が明示されていないため、授業科目の適切な開設であるとか教育課程の体系的性といったことを検証するための基準がなかったが、現在7月を目処に両方針の設定を進めている。方針を明示した上で、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップを作成し明示することとなる。 学部・各センターと、教務部の「共通教育センター」が連携し、本学の卒業生が身につけておく必要な能力である「KG学士力」の定義案が、教務委員会で承認され、6月の大学評議会で承認される予定である。また、共通教育センターを中心に現行の全学科目を整理し、パンフレットを作成し、学部オリエンテーション等を通じ学生に周知を図った。今後全学科目のカリキュラム・マップやツリーを提示し、学生に周知することで、体系的な履修ができるよう進めていく。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 共通教育センターを中心に検討し、初年次教育科目として、「スタディスキルセミナー」を2011年度に設置した。初年度は「コミュニケーション能力涵養プログラム」、「文章能力涵養プログラム」、「プレゼンテーション能力涵養プログラム」（いずれも30人定員）を開講している。また、本学の特色としているMDS（複数分野専攻制）、ジョイントディグリーの申請者増について、2011年度は学生への情報提供を主眼に検討し、新入生対象のパンフレットを作成し、またMDS履修案内書を充実させ、周知を図っている。 今後、学位授与方針、KG学士力、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性の検証を行う必要がある。

その他

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合

ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合

専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

入学年度	プログラム提供学部・センター等									年度累計
	神学部	文学部	社会学部	法学部	経済学部	商学部	国際学部	言語教育研究センター	スポーツ科学・健康科学研究室	
1997	-	12	7	14	4	-	-	19	-	66
1998	2	4	6	12	0	-	-	16	-	47
1999	5	6	6	9	3	-	-	10	4	51
2000	1	7	15	4	4	2	-	19	3	55
2001	2	4	12	0	3	13	-	30	1	71
2002	0	5	18	6	2	9	-	20	2	70
2003	1	15	12	20	10	29	-	18	9	114
2004	1	18	14	18	6	18	-	13	6	94
2005	1	10	6	17	4	16	-	12	4	70
2006	1	14	8	20	8	19	-	28	1	99
2007	1	7	15	18	10	13	-	31	1	96
2008	0	18	4	14	15	11	-	43	-	105
2009	0	10	4	19	9	7	-	18	-	67
累計	15	130	126	179	87	137	0	290	31	995

注 1) スポーツ科学・健康科学研究室提供プログラムは2008年度入学年度から実施停止。

■MDS修了者数(2011年3月現在)

入学年度	修了者数	入学年度	修了者数
1997	27	2004	29
1998	11	2005	19
1999	23	2006	29
2000	18	2007	23
2001	20	2008	*2
2002	21		
2003	26		
		総計	248

* 2008年度は3年早期卒業生

■ジョイント・ディグリーによる編入学生数一覧 (2011年4月現在)

1つ目の学部	2つ目の学部					計
	文学部	社会学部	法学部	経済学部	商学部	
神学部	1	1				2
文学部		1	4		2	7
社会学部	4		3		3	10
法学部				6	1	7
経済学部	2	2	10		2	16
商学部	1		1			2
人間福祉学部	1					1
総計	9	4	18	6	8	45

【年度別 編入学生数】

2007年度:4人, 2008年度:10人, 2009年度:11人, 2010年度:13人, 2011年度:7人

2011年度 スタディスキルセミナー申込者数及び履修者数			
学期	講義名	クラス	履修人数
春学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	1	30
春学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	2	30
春学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	3	19
春学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	4	30
春学期	スタディスキルセミナー（文章力を身につけよう！）	1	30
春学期	スタディスキルセミナー（文章力を身につけよう！）	2	30
春学期	スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう！）	1	30
春学期	スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう！）	2	30
秋学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	5	
秋学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	6	
秋学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	7	
秋学期	スタディスキルセミナー（読む・書く・話す・聴く）	8	
秋学期	スタディスキルセミナー（文章力を身につけよう！）	3	
秋学期	スタディスキルセミナー（文章力を身につけよう！）	4	
秋学期	スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう！）	3	
秋学期	スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう！）	4	

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	2010年4月に共通教育センターが設置されたことにより、全学科目の体系的な検討を行うことが可能となった。2010年度は総合コースについて開講数・開講形態・予算等のルールを見直し、2012年度開講分から適用することになった。また、各学部の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が7月までに設定することが決定され、その後のカリキュラム・マップの整備への見通しができた。
小項目6.2.2	初年次科目として開設した「スタディスキルセミナー」が春学期の開講8科目中7科目が定員に達し、毎回の授業で高評価を得ている。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	総合コースについて、ルール改正の趣旨を生かした開講となっているか、開講数が適正か等を検証していく。また各学部の教育課程について、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の設定後にカリキュラム・マップの整備を推進する。
小項目6.2.2	授業評価等を通じ、初年次教育科目としての「スタディスキルセミナー」の実効性を検証し、次年度の方策を策定する。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	授業科目の適切な配置、課程の体系的編成を検証するためのカリキュラムマップ等の整備。
小項目6.2.2	全学科目の内容・体系がKG学士力の定義に照らしてふさわしいものであるかの検証。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	各学部、全学科目の教育課程について、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、KG学士力の設定後にカリキュラム・マップを整備し、体系性等を検証していく。
小項目6.2.2	共通教育センターが中心となり、全学科目の提供部署と協力して、科目内容・順位性がKG学士力に定められている能力の養成にふさわしい内容であるかを検証していく。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「現状の説明」6.2.2にあるように、今後は「学位授与方針、KG学士力、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性の検証」が課題になると思われます。「改善すべき事項」としても意識されていますので、実践が待たれます。

【学内委員】

○KG学士力の定義がまとまりつつある状況ということで、それを踏まえてのカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの整備が待たれます。

○初年次教育科目として「スタディスキルセミナー」が開講されたことは評価できますが、規模的に見て試行的なものにとどまっています。全学的な効果を考えるなら、規模のかなりの拡大が必要になるのでは。

○共通教育科目群の体系の明示、初年次教育科目群の体系化、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーの作成はその具体化が急がれる事項であると思います。それらの可及的早い実現が期待されます。MDS修了者数および二学位取得者数の増加については、現実に生じているさまざまな問題点を十分に斟酌した上でその方策を考えることが必要です。

○改善すべき事項に示されているカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成を期待します。

○共通教育センターが中心となり、科目内容・順位性がKG学士力に定められている能力の養成にふさわしい内容であるかを検証していくことを期待するとともに質保証システムとしてPDCAが廻っていくことも期待します。

○初年次教育科目の履修者数やMDS（複数分野専攻制）、ジョイントディグリーの人数を経年で表にして本シートに貼り付け、自己点検・評価することを検討してください。

○カリキュラム・マップやツリーの作成に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・共通教育センターが設置されたことは評価されます。改善方策の中で記述されている方策が着実に実施されることが望まれます。

・「共通教育センター」の今後の施策立案と実施に期待します。

・「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」において、「教育課程に関する情報」の公表が義務化され、教育課程の体系性について明らかにすることが求められています。

・本項目は「6.1 教育目標・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」と連動し重要な項目です。各目標の実現に期待します。

・MDS修了者及び二学位取得者については、制度の継続的な改善をはかった上で数が増加することが期待されます。

・目標4は「MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数を1.5倍に、二学位取得者数を2倍にする」とし、指標は「MDS修了者数、二学位取得者数」が好ましいでしょう。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 初年次教育科目「スタディスキルセミナー」の履修者数、MDS履修登録者数・修了者数、ジョイントディグリー編入学生数の経年データを評価指標データに追加する。